

人材育成の目的

保健学・医療の分野において、生命・医療倫理を基盤とした専門的知識・技能を有し、国際的視野をもって現代社会で活躍する高度専門職業人、教育・研究者及び地域社会を牽引するリーダーの育成を目指す。

卒業認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

① 学位授与の要件

本課程に2年以上在学して、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定課題研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間については、本課程に1年以上在学すれば足りるものとする。（修業年限特例の適用）

学位審査は、主査1名、副査2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告に基づき、保健学教育部教授会で審議を行い、可否を判定する。

②修得すべき知識・能力

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・ 看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの分野において、学士課程教育の基盤の上に高度な知識を持ち、幅広い視野で問題解決できる実践能力と生涯を通して学修を継続する力を有している。
- ・ 研究活動において、情報を駆使して、アイデアを発展させ、応用する創造力を修得している。

2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

- ・ 看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの分野において、高度で普遍性のある教養を身に付け、知識を統合する能力を有し、自らの知識や理解を適用する際の社会的、倫理的責任を考慮しつつ、他分野と連携し複雑な課題を解決できる能力を修得している。

3. グローバルな視野と行動力

- ・ 看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの分野において、現代社会が直面する医療問題の解決に挑戦するために、世界の多様な文化・歴史・制度を理解し、国際的に通用する専門知識・技能及び自らの考えを持っている。
- ・ 上述のことを専門家に対しても、一般の人々にも、明確に伝えることができるコミュニケーション力を修得している。

4. 地域社会を牽引するリーダー力

- ・ 看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの分野において、自らの知識、技能、そして問題解決能力を、専門分野及びより広い学際的な領域で発揮して、地域における指導的人材として活躍できる知識・能力を修得している。

教育課程編成・実施の方針 CP (カリキュラム・ポリシー)

①全体の方針

生命・医療倫理を基盤とした専門的知識・技能を身に付けるためにすべての学生が履修する「共通基礎科目」を設けるとともに、各分野に「専門科目」を配置している。さらに実践能力を高めるために「演習科目」を設置している。これらの講義・演習に加えて、自らが課題を見つけ解決する能力を持つ高度専門職業人及び教育・研究者として活躍する能力を育成するために、「学位論文」を課している。「共通基礎科目」には国際的視野を持って働ける人材を育成するための科目を設置し、専門科目、演習科目で実践的能力を高める科目を設置しており、高度専門職業人を育てるのにふさわしいカリキュラム編成となっている。

②教育課程編成の方針（「修得すべき知識・能力」への対応）

1. 「高度な専門的知識・技能及び研究力」

看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの各分野の高度な知識と幅広い視野で問題解決できる実践能力を身に付け生涯を通して学修を継続する力を修得させるために、それぞれにふさわしい「専門科目」及び「演習科目」を設置している。さらに情報を駆使してアイデアを発展させ応用する創造力を修得させるために「学位論文」を課している。

2. 「学際的領域を理解できる深奥な教養力」

看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの各分野において、高度で普遍性のある教養を身に付け、知識を統合する能力を獲得させるために「共通基礎科目」を設置している。また自らの知識や理解を適用する際の社会的、倫理的責任感を涵養するために「医療倫理学」などの科目を「共通基礎科目」に配置している。

3. 「グローバルな視野と行動力」

看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの各分野において、国際的に通用する専門知識・技能を身に付けさせるために「国際比較医療疫学特論」を「共通基礎科目」に配置している。また、「専門科目」の演習のいくつかにおいては、英語論文の読解を利用している。さらに「学位論文」指導の際にも英語論文の読解を課し、国際的コミュニケーション力を身に付けさせている。

4. 「地域社会を牽引するリーダー力」

看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの各分野において、自らの知識、技能と問題解決能力を、専門分野及びより広い学際的な領域で発揮できるように「共通基礎科目」及び「専門科目」を設置している。地域において指導的人材として活躍できる知識・能力を修得させるために、「学位論文」をまとめる過程で地域社会を牽引するリーダーとしての自覚を促している。

③教育課程における教育・学習方法に関する方針

1. 「高度な専門的知識・技能及び研究力」

看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの各分野において必要とされる実践能力を身に付けさせるため、講義においては、基本的知識に加え、医療における最新情報を盛り込むことで、変わりゆく医療に対応することが可能となる。また、演習では、実際に医療現場で使用されている機器や医療現場に近い環境を提供することで、命に係わる作業を行うことの緊張感と慎重さを学ぶことを可能としています。様々な分野で学んだ知識の集大成は卒業研究の中で行い、すべての知識の組み合わせが一つの医療行為の達成につながることを経験により修得させる。

2. 「学際的領域を理解できる深奥な教養力」

看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの各分野は、より良い医療を社会に還元するという点において、共通の目的を持つ。学生に共通する目的を理解させるため、医療という大きな観点からの講義を実施し、分野を超えた学生間のディスカッションを通して、様々な問題に対する解決案を導くための論理的思考力を養う。

3. 「グローバルな視野と行動力」

国際的に通用する専門知識・技能を身に付けるため、看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの各分野における「専門科目」の演習のいくつかにおいては、英語の資料や論文を多用し、さらに、外国人講師による英語セミナーを実施することで、英語によるコミュニケーション力の向上を図る。

4. 「地域社会を牽引するリーダー力」

学生が卒業後に、社会で自らの知識や技能を発揮し、将来的に地域社会を牽引するリーダーとして育つように、看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの各分野において、学生のうちから地域の活動や専門分野での学術大会への参加を推奨し、世の中に潜在する多くの問題点の解決に取り組ませることで、知的好奇心と研究に対する意欲を高める。

④学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される教育課程の取得単位数、GPA の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価する。また、学位論文については、学位論文審査基準を明示し、その基準に基づき適切に評価する。

看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの各分野に共通して、学修成果は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から「評価方法・基準」により評価する。また、学修成果の「評価方法・基準」は、筆記試験、レポート試験、演習への積極的な参加等によるが、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施する。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

保健学専攻博士前期課程では、学士課程における専門教育をさらに高度化、専門化し、「保健・医療・福祉領域の包括的、先端的な教育・研究を通して保健学の学問体系を確立し、その成果を社会に還元することにより、国民の健康と福祉の発展に貢献する」ことを基本理念とし、「人間の尊厳を軸とした高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を備え、高度な専門的知識を持ち、医療現場でリーダーシップを発揮できる高度専門職業人及び教育・研究者を養成する」ことを目的とする。

以上の観点から、本課程では次のような人を求める。

1. 国民の健康ニーズに貢献する情熱を持っている人
2. 保健学専攻の教育を受けるための基礎学力を持っている人
3. 保健学に対する高い追求心を持ち、主体的な勉強及び自己啓発に積極的である人
4. 保健・医療・福祉現場での実践的指導者（高度専門職業人）又は教育・研究者を目指している人
5. 専門分野において地域貢献するとともに、国際的な広い視野で物事を考え、活躍する意欲のある人

◆入学者選抜の基本方針

保健学教育部博士前期課程では、看護学・放射線技術科学・検査技術科学・遺伝カウンセリングの各分野に共通して、アドミッション・ポリシーに適合する人材を選抜するために、学力検査として英語、基礎科学一般・基礎専門科目に関する筆記試験及び口述試験を課し、英語力、基礎科学一般・基礎専門科目に関する知識、論理的な思考力及び研究への意欲を総合的に判定する。

保健学教育部 博士後期課程 保健学専攻

人材育成の目的

保健学・医療の分野において、生命・医療倫理を基盤とした専門的知識・技能を有し、国際社会でリーダーシップを発揮するグローバルな研究者、研究マインドを備えた先導的高度専門職業人の育成を目指す。

卒業認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

①学位授与の要件

本課程に3年以上在学して、12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げたと認める者については、本課程に1年以上在学すれば足りるものとする。（修業年限特例の適用）

学位審査は、主査1名、副査2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告に基づき、保健学教育部教授会で審議を行い、可否を判定する。

②修得すべき知識・能力

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・ 保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）分野の体系的な知識とその分野の研究に必要な技術と方法を修得している。
- ・ 将来を予測し、必要とされる高い専門性を見極め、深い洞察力と総合的な判断力をもって自律的な研究活動ができ、その成果を以て知識基盤社会に貢献できる知識・能力を修得している。

2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

- ・ 保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）分野において、高度で普遍性のある教養を基盤とし、自らの知識や理解を研究に適用する際の社会的、倫理的責任を考慮しつつ、俯瞰的視野をもって学術の新たな地平を切り拓く知識・能力を修得している。

3. グローバルな視野と行動力

- ・ 保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）分野における独創的な研究により、学問分野の先端知識を創造し、その成果を国内外に発表し、グローバル社会における知識の最前線の拡大に貢献できる応用力と行動力を修得している。

4. 地域社会を牽引するリーダー力

- ・ 保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）分野において、学術及び専門的な観点により、知識社会における産業、文化、教育、医療福祉などの振興に寄与する先端的研究者及び研究マインドをもつ高度な専門職業人として、地域社会のリーダーとなる知識・能力を修得している。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

① 全体の方針

生命・医療倫理を基盤とした専門的知識・技能を有した研究者及び研究マインドを備えた高度専門職

業人を育成するためのカリキュラムを編成し、生命倫理、幅広い学際知識を修得させるための「保健共通科目」と高度な専門知識を修得させるために看護学・放射線技術科学・検査技術科学分野のそれぞれに「専門科目」を提供している。さらに、国際社会で活躍する研究者及び研究マインドを備えた先導的の高度専門職業人として活躍するために「博士論文」の提出を課している。

②教育課程編成の方針（「修得すべき知識・能力」への対応）

1. 「高度な専門的知識・技能及び研究力」

保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）の体系的な知識及び研究に必要な技術と方法を修得させるためにふさわしい「講義科目」と「演習科目」を設置している。また、深い洞察力と総合的な判断力を有し自律的な研究活動ができる能力を獲得させるために「博士論文」の提出を課している。さらに博士論文提出の要件として研究原著論文の提出を課している。

2. 「学際的領域を理解できる深奥な教養力」

保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）分野において、高度で普遍性のある教養を基盤とし、俯瞰的視野をもって学術の地平を切り拓くための知識・能力を修得させるために「保健共通科目」を設置している。

3. 「グローバルな視野と行動力」

保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）分野における、独創的な研究成果を国内外で発表しグローバル社会に貢献できる能力を身に付ける機会を提供する。また、国際的に通用する専門知識・技能を身に付けさせるために英語論文抄読会を行っている。さらに「博士論文」指導の際にも英語論文の読解を課し、国際学会への参加を通じて国際的コミュニケーション力を身に付けさせている。

4. 「地域社会を牽引するリーダー力」

保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）分野において学術及び専門的な観点により、先端的研究者及び研究マインドをもつ高度な専門職業人として、地域社会のリーダーとなるための機会を提供する。さらに、地域において指導的人材として活躍できる知識・能力を修得させるために、「博士論文」をまとめる過程で地域社会を牽引するリーダーとしての自覚を促している。

③教育課程における教育・学習方法に関する方針

1. 「高度な専門的知識・技能及び研究力」

保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）において必要とされる体系的な知識及び研究に必要な技術と方法を身に付けさせるため、講義においては、自らのアイデアを研究という形に導くための様々な手段を修得させる。また、演習では、研究目的に応じた最適な実験・調査方法を自分の判断で選択するためのノウハウを理解し、さらに、論文を書くために必要な技術を多くの例から学ばせる。

2. 「学際的領域を理解できる深奥な教養力」

高度で普遍性のある教養を基盤とし、俯瞰的視野をもって学術の地平を切り拓くための知識・能力を修得させるために、保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）分野では、医療という大きな観点から、分野全体に共通して重要と思われる科目の講義を実施し、学生間のディスカッションを通して、様々な問題に対する解決案を導くための論理的思考力を養う。

3. 「グローバルな視野と行動力」

独創的な研究成果を国内外で発表しグローバル社会に貢献できる能力を身に付けさせるため、保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）分野では、英語論文抄読会や、英語による講演動画の視聴

会等を頻繁に開催し、その上で、国際学会等での研究発表への参加を推進することで、英語コミュニケーション力の向上を図る。

4. 「地域社会を牽引するリーダー力」

先端的研究者及び研究マインドをもつ高度な専門職業人として、社会で自らの知識や技能を発揮し、将来的に地域社会を牽引するリーダーとなるように、保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）分野において、地域社会のリーダーとなるための機会や、専門分野での学術大会へのスタッフとしての参加機会を提供し、地域社会を牽引するリーダーとしての自覚を促す。

④学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される教育課程の取得単位数、GPA の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価する。また、学位論文については、学位論文審査基準を明示し、その基準に基づき適切に評価する。

保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）分野では、学修成果は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から「評価方法・基準」により評価する。また、学修成果の「評価方法・基準」は、筆記試験、レポート試験、演習への積極的な参加等によるが、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施する。また、最終的には、「博士論文」を完成させる前には、研究雑誌等への研究原著論文の提出及び採択を必要条件として課している。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

博士後期課程では、博士前期課程における、看護学、放射線技術科学及び検査技術科学の各分野の知識・技術をより発展させ、かつ統合することにより、『保健学の学問体系を確立し発展させること』を基本理念とし、人間の健康の維持・増進や地域医療の質の改善と向上を念頭に置き、「幅広い視野と専門性に立脚した教育・研究能力を兼ね備え、さらに研究チームやチーム医療のリーダーとしての役割を担える人材」すなわち「医療現場における高度な医療専門職業人及び研究能力に優れた人材」を養成することを目的とすると共に「高等教育機関における教育・研究者」を養成する。

また、本専攻の定めるアドミッション・ポリシーは次のとおり。

1. 国民の健康ニーズに貢献する情熱を持っている人
2. 保健学専攻の教育を受けるための基礎学力を持っている人
3. 保健学に対する高い追求心を持ち、主体的な勉学及び自己啓発に積極的である人
4. 保健・医療・福祉の分野で教育・研究者または実践的指導者を目指している人
5. 専門分野において地域貢献するとともに、国際的な広い視野で物事を考え、活躍する意欲のある人

◆入学者選抜の基本方針

保健学教育部博士後期課程では、アドミッション・ポリシーに適合する人材を選抜するために、学力検査として英語（英語資格・検定試験のスコアを含む）及び科学一般・専門科目に関する口述試験を課し、英語力、科学一般・専門科目に関する知識、論理的な思考力及び研究への意欲とその遂行能力の有無を総合的に判定する。